

悪性腫瘍の放射線治療

26-1 放射線治療科 的場 宗孝

現在がん治療では、手術、抗がん剤治療、放射線治療が三大治療として確立され、これらを組み合わせて行うのが、がん治療の中心となっています。この中でも放射線治療は治療機器の進歩と共に近年、治療成績の向上と副作用の少ない治療法として認識されています。

1. 放射線治療とは

胸部レントゲンと同じ X 線を使用しており、人間の体に当てると体の組織を通り抜けて、がんを治す働きがあります。放射線治療自身に痛みはありません。また、照射により患者さん自身が放射能をもつことはありません。

2. 放射線治療の方法

放射線治療には、体の外部から照射する外部照射治療と、体の内部から照射する小線源治療があります。

外部照射治療には、リニアックという医療専用機器が用いられています。

小線源治療は、前立腺がんで、小さな線源をがんの中に入れ、内部から放射線をあてる方法です。できるだけたくさんの放射線をがん照射し、周囲の正常組織にはできるだけ放射線をあてないことを目的としています。

3. 放射線治療の役割

治すことを目的とした治療（根治治療）から、症状を和らげるための治療（緩和治療）まであります。腫瘍を小さくする目的で、手術の前に用いることもあります（術前照射）。また、手術後に残っている可能性のあるがん細胞を根絶するために、放射線治療が使われることもあります（術後照射）

がんを完全に治すことが不可能な場合でも、放射線治療により苦痛が除去されることもあります。腫瘍を小さくし、腫瘍による圧力、出血、痛み、さらに他の症状を減らす目的で用いる場合もあります（緩和照射）

4. 放射線治療の特徴

がんを切らずに治し、臓器の働きや形を保つ点にあります。

当院では、以下の治療方法も採用されています。

a. 定位的放射線治療

治療効果を高めることと腫瘍周辺の正常部位の合併症を低下させることを目的に、小さい範囲に対して大量の放射線を短期間に集中して照射する治療法です。

b. 強度変調放射線治療（IMRT）

コンピュータの助けを借りて正常組織の照射線量を抑えつつ腫瘍部分に放射線を集中して照射できる治療法です。

今後、当院も最新の治療を行い、一層の治療成績の向上を目指してまいります。